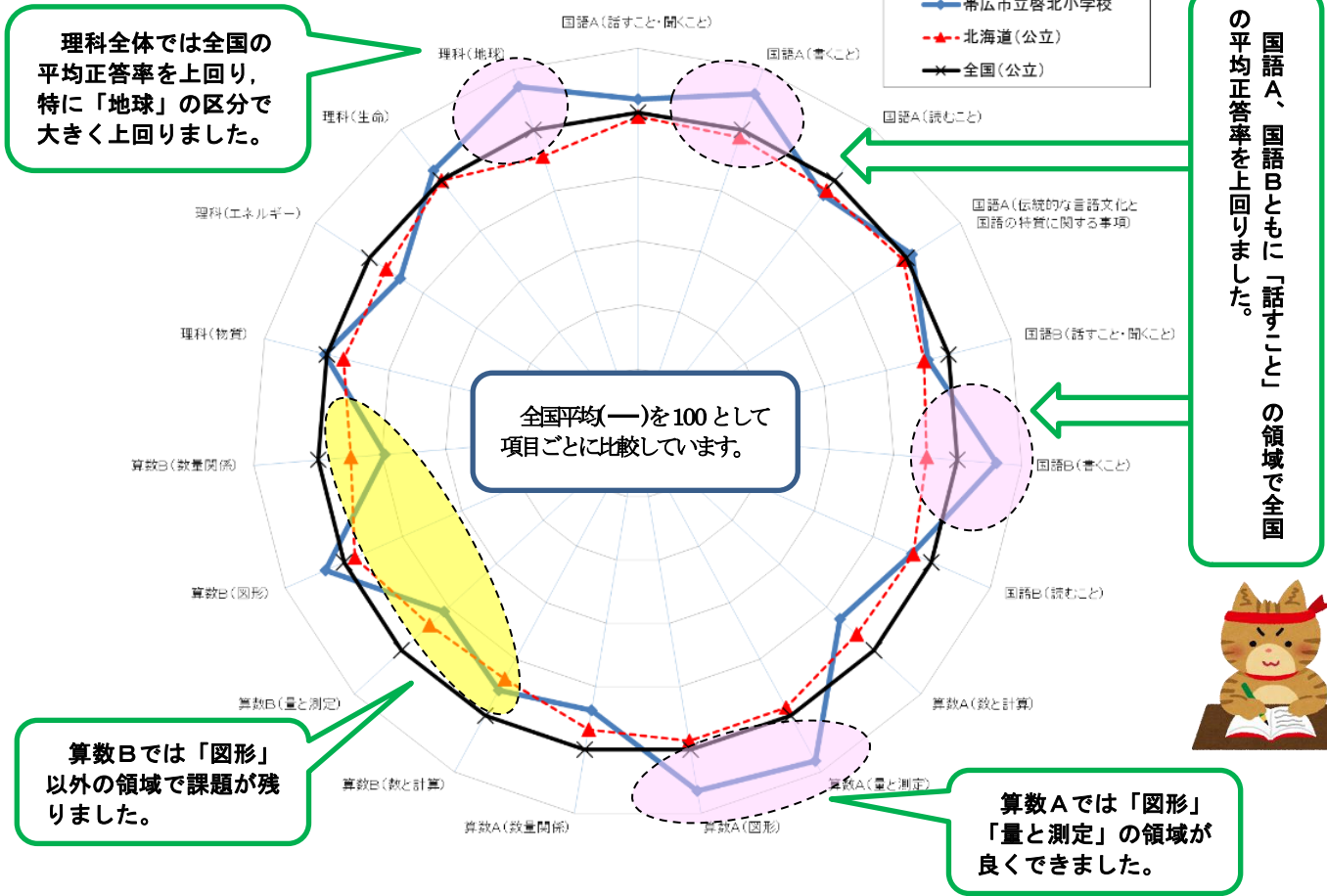


平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて

帯広市立啓北小学校

調査結果からみた、本校児童の様子

学力について



国語 A<主として知識>

- 「読むこと」以外の領域で、全国平均を上回った。
- 無解答率が、全体的に全国平均より低く、解答への意欲がうかがわれた。
- 文の中で漢字を使う問題で、「しょう毒」の「しょう」と同じ字を使っているものを選ぶ問題が良くできていて、全国平均より大きく上回った。
- 文の中で漢字を使う問題で、「せつ極的」の「せつ」と同じ字を使っているものを選ぶ問題が、全国平均を大きく下回った。

国語 B<主として活用>

- 全体としてはほぼ全国平均と近い正答率となった。
- 記述式の設問においては、全国平均に比べ無回答が大変少なく、意欲的に解答に取り組んでいた。
- 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」設問では、全国平均を大きく上回った。
- 話合いの参加者として、質問の意図を捉えることや、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題で課題が見られた。

算数 A<主として知識>

- 「量と測定」「図形」の領域で全国平均を上回った。
- 混み具合を比べる式の意味や、空中の中にあるものの位置を正しく書くことについてよく理解していた。
- 除法で表すことができる二つの数量の関係を理解しているかをみる設問において、課題が見られた。
- 百分率を求める設問において課題が見られた。

算数 B<主として活用>

- 「図形」の領域で全国平均を上回った。
- 全体的に無解答率は、全国平均より低く、解答への意欲がうかがわれた。
- 示された考え方を解釈し、他の数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する設問において課題が見られた。
- 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する設問に課題が見られた。

理科

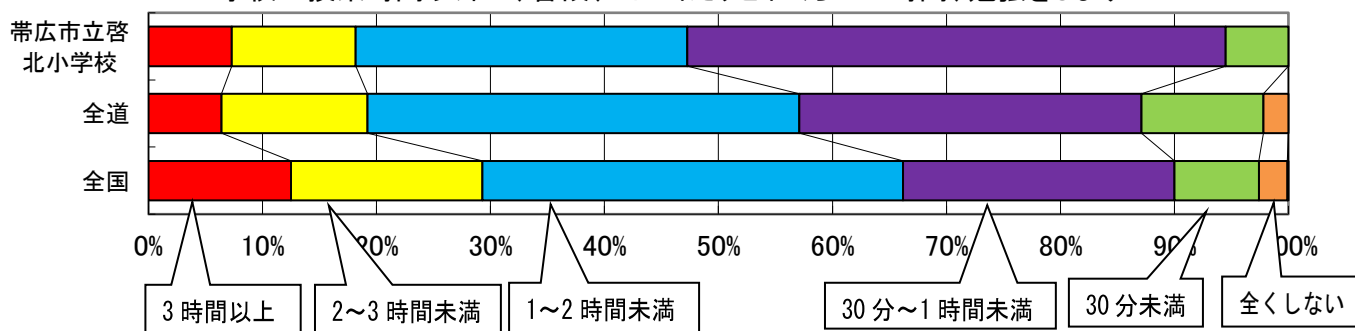
- 「主として「知識」に関する問題」では、全国平均を上回った。
- 特に地球の区分はよくできていた。
- 腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く設問や、人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する設問において、全国平均を上回った。
- 回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直すことや、物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適応する力で、課題が見られた。
- 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ設問で、課題が見られた。

学習状況について(児童質問紙より)

- 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思っている児童が多い。
- 家で、学校の授業の予習・復習をしているという児童が多い。
- 家庭学習で、教科書を使いながら学習している児童が多い。
- ▲普段の家庭での学習時間が短い。



学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



学校では...
家庭では...



①基礎・基本の確実な定着

- ・はばたきタイム(朝学習), チャレンジテストの活用
- ・漢字や計算の反復練習

②分かりやすい授業づくり

- ・1時間の課題とまとめが明確な授業
- ・TTや少人数指導など複数の教師による個に応じた指導

③学習規律・学習習慣の定着

- ・全学級統一の「学習のきまり」を設定し、返事の仕方や話の聞き方を継続指導
- ・宿題の提示や、家庭学習への取組奨励と評価(児童への励まし)

①机に向かう時間の確保

- ・目標は「10分間×学年+10分間」
- ・時間帯を決めて毎日継続(定着するまでは、保護者からの声掛けを)

②テレビ・ゲームやネット利用の時間を決める

- ・自分の生活を振り返り、視聴時間を再確認(「生活リズムチェックシート」の活用)
- ・テレビ、ゲームやネット利用の時間を減らし、家庭学習や読書の時間に(ストップ・ザ・見放題, 家読)

③心がふれあう時間の確保

- ・将来を思い描き、学習の意義を感じながら意欲をもって学習に取り組む姿勢の育成
- ・子供の頑張りやよい所を認め、称賛

学校と家庭が連携し、学力向上を目指しましょう!